

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）
研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題

人口知能など高度化する情報技術社会におけるルールと公共性の問題

研究テーマ名

AI が介護保険行政を代行する際のルールに関する研究—地域経営と SC の視座から—

責任機関

公立大学法人福知山公立大学

研究実施期間

令和2年10月～令和5年3月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者	川島 典子	福知山公立大学・地域経営学部・教授
グループリーダー	岡本 悦司	福知山公立大学・地域経営学部・教授
グループリーダー	西田 豊明	福知山公立大学・情報学部・教授
分担者	黄 宏軒	福知山公立大学・情報学部・教授
分担者	倉本 到	福知山公立大学・情報学部・教授
分担者	神谷 達夫	福知山公立大学・地域経営学部・教授
分担者	稲葉 陽二	東北大学大学院・文学研究科・リサーチフェロー（日本大学法学部政経研究所研究員、元日本大学・法学部・教授）

配分（予定）額

（単位：円）

令和2年度	令和3年度	令和4年度
2,860,000円	5,265,000円	5,720,000円

※令和3年度・令和4年度については予定額

研究目的の概要

本研究の目的は、AI が自治体の介護保険行政を担う際、福祉専門職の業務の判断の自律性をどの程度 AI に委ねるのが適切なのかということに関するルールを福祉専門職の倫理等とソーシャル・キャピタル（以下、SC）の視座から明らかにすることにある。具体的には要介護認定の二次判定やケアマネジメント等を AI が代行する際、どのようなルールが必要なのかを実証研究によって明確にする。又、介護保険制度下の介護予防に関する業務等を AI が代行する際、個人の尊厳や判断の自律性等を担保するためにどのようなルールが必要なのかを明らかにする。更に、AI が介護保険行政も含めた地域経営に参入する際、何が阻害要因となり何が促進要因となるのかを SC 理論に立脚し、計量的に検証する。

研究計画の概要

初年度は「福知山公立大学北近畿地域連携機構」が提携する調査対象地の事例研究を行い、福祉専門職や福祉担当部署の行政職員を対象にして半構造化面接を行う。次年度は、初年度に行った半構造化面接の結果を GTA によって分析する。又、提携先自治体の介護保険の被保険者に関する情報を量的・質的双方の研究方法により分析する。更に、SC に関する自記式アンケート調査を行い、相関分析、ロジスティック回帰分析、マルチレベル分析等によって分析する。最終年度は、GTA や自記式アンケート調査を分析した結果によって、介護保険行政における福祉専門職の業務に関する意思決定をどのように AI に代行させるのが適切なのか等のルールと倫理を明らかにする。又、具体的に AI に学習させるべき社会福祉士の倫理（価値）を明確にする。更に、中山間地域において AI が地域経営に参入する際、何が阻害要因となり何が促進要因となるのかを SC 理論に立脚して明らかにする。